

平成27年度第6回企業向け人権啓発講座

日 時：平成27年10月28日（水）13：00～15：00

場 所：京都市呉竹文化センター ホール

講演（1）

演題：「ネットワーク社会と人権」

講師：原 清治（佛教大学教育学部 教授）

— 講演概要 —

【ネット社会とつながりの希薄さ】

最近、大学では、食堂の1人用席「ぼっち席」や、1人でいる所を見られないように便所の個室で食べる「便所飯」などの姿が散見されるようだ。他者から孤独な人間と見なされたくないとする若者は少なくない。現在のネットワーク社会の中では、いつでもみんなつながっているという感覚が現実である。しかし、実際は一人一人のつながりは希薄で、孤立している。

こうした人間関係の「つながる」力を復権させ、社会に出る前に協働的に学ぶ空間「ラーニング・コモンズ¹⁾」を設置する大学が増えてきている。例えば、自由に四、五人のグループを作らせてレポートを提出させる試みをしたとしよう。すると、グループを作れずに1人で提出する者が出てくる。このようにネットワーク社会の中でつながっている「はず」の人間関係が分断されているように見受けられる。

【仲間集団内で生じるカーストといじめ】

最近の子どもたちの人間関係を見ると、同じ学年、同じクラスであるにもかかわらず、その集団の中で序列性を持つことが目立つようになってきている。これを「スクールカースト（教室内の序列）²⁾」と呼ぶことがある。例えば、そうした力関係を利用して、カーストの高い子から低い子へ向けて一方的なからかいや中傷が向けられることがある。これを子どもたちは「いじり³⁾」と呼ぶ。

しかし、その背景には確信犯的ないじめの気持ちがあるかといえ、そうではなく、むしろいじる側には悪意というより、笑いの対象がその子に向けられている程度の意識であり、いじられる側もその行為はいじめではなく、自分が引き受けられる役割ぐらいに認識していることが多いようである。その際、両者に共通している現象は「笑い」を仲介としていることである。

最近のいじめは、一定の人間関係を持つ仲間集団の中に入り込んでいると文部科学省も指摘しており、ネットの中も例外ではない。直接他者を誹謗中傷するようなネットいじめは減少しており、代わって他者の個人情報（実名、LINEのID等）やプライベートな出来事などをLINEなどに書いてみんなで笑うといったタイプの間接型のネットいじめが増加している。これをさらし型のネットいじめということもできる。

こうした現象を総合的に考えてみると、LINEの使い方も我々大人の想像を超える所にある。例えば、誰かが書いたメッセージに対する返信の早さで、その人がそのグループ内での程度尊重されているのか、人間関係の序列性を測定できるのである。カーストの高い子への返信は早く、低い子には遅いといった特徴が見られるからである。

¹⁾ 複数の学生が集まって、様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。

²⁾ 「^スクールカースト」（光文社新書、著者鈴木翔）において提唱される概念。

³⁾ いじること。他人をもてあそんだり、困らせたりすること。

【配信型メディアの問題】

最近のネットの利用の仕方を見ると、ニュースサイトのように情報を受け取るのみのサイトから発信型のサイトに移行してきているようである。発信型サイトの怖さは自分の意図と受取手側の解釈が必ずしも一致しない点にある。発信者の意図が正確に受取手に伝わらないことによって、人間関係が崩れることもある。

【人権侵害の解決に向けて】

こういったネット問題を解決するためには、まず家庭において、ネットの使用上のルールを作ることが求められる。その際に、ルールを子どもにだけ適用するのではなく、家族みんなで共有することが重要である。そのためには、家族の中でのしっかりとした会話が欠かせない。利用時間を決める際も理想論ばかりに終始せず、親も含めて「何時だったら家族全員の携帯の電源を落とせるのか。」それぞれの事情と理由を話し合うだけで相当なコミュニケーションが取れる。気付かなかった家族の気持ちや思いが分かるかもしれない。

さらに、ソーシャル・スキル⁴への気付きは大切である。それは、直接型のコミュニケーションをおろそかにしては生まれない。パットナム⁵によれば、より大きな人間関係の集団を作る力こそが大切だと指摘される。最近の子どもたちは非常に同質性の高い小さな集団に満足するくらいがあるが、これもネット社会から生み出されてきた特徴の一つであるとされる。他者の人権を尊重し、豊かな社会を形成するためには便利な道具である携帯の利便性をいかしながらも、その陰に生まれるこうした問題の実態を正確に把握していくことも重要なのである。

⁴ 社会の中で自立し、主体的であるとともに、他の人との協調を保って生きるために必要とされる生活上の能力。

⁵ アメリカ合衆国の政治学者ロバート・パットナム。